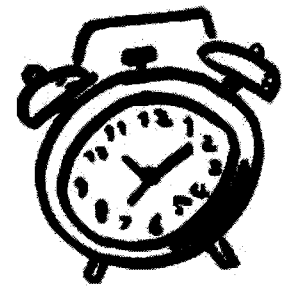


1/29(日) まいど! 倫理号です、今日になり申請ありませぬ
今日の体験は誰いでも出来る事、心で変化するの?

変わります、やってみよう
辛くてもPホ鳥

一月のテーマ

信念ある生活を



え・浅妻健司

強い信念は 体験から生まれた

昨年度、I県倫理法人会の普
及拡大委員長を務めたH氏。
様々な困難を乗り越えて、みごと
二単会の開設を成し遂げ、年度の
普及目標達成を牽引しました。

「倫理を学ぶ仲間を増やすこと
は地域をよくすること」という信
念を持ち、「絶対に大丈夫」と自分
にも周囲にも言い続けた背景には、
自身の倫理体験がありました。

H氏は、自動車関連の会社を経
営しています。創業者である父と
がむしやりに働き、事業継承後は、
人の三倍働きました。その一方で、
頑張れば頑張るほど、自分にも他
人にも厳しくなっていました。

ある時、長男が突然、引きこも
るようになったのです。腹を立て
たH氏は、寝ている長男の布団を
強引にはがし、叱りつけ、時には
手を上げました。しかし、どうに
もなりません。無力感に苛まれた
氏は、息子を変えたい一心で倫理
指導を受けました。

「見返りを求めずに」という言
葉と共に指導されたのは、四つの
実践でした。「息子に手紙を書くこ

と」「墓参をすること」「両親の足
を洗うこと」「妻に詫びること」。

どれもハードルの高いものでした
が、翌日から実践を始めました。

長男には「辛いだろうが、必ず
よくなる」と信じている」と書いた
手紙を渡しました。先祖の墓前で
手を合わせ、「息子を助けてくださ
い」と声に出した瞬間、体の底か
ら力が湧いてくるような感覚に包
まれました。戸惑いながらも母の
躰だらけの足に触れると、苦労を
かけた申し訳なきが溢れ、「嬉しい
よ」と繰り返す母の言葉に、泣き
ながら足を洗いました。

問題は、妻に詫びることでした。
普段から会話も多く、仲が良かっただけに、何を詫びたらいいのか
わからなかったからです。

形だけでも済ませようと、ある早
朝に妻を呼び、「今まで苦勞をかけ
た」と土下座をしました。夫の謝
る姿に妻は感激し……という光景
を期待しましたが、妻は何も言わ
ないままでした。それでもH氏に
は、やるだけはやったというスツ
キリとした気持ちが残りました。

すると翌朝、あれほど頑なだつ
た長男が、作業服を着て階段を下
りてきたのです。思わず息子を抱
きしめたH氏。すぐに指導者に報
告すると、「奥様に詫びた理由は何
だと思っ？」と尋ねられたのです。

「奥様が十月十日お腹の中で慈
しんだ最愛の子に手を上げたから
です。これでご先祖とご両親、妻
と息子さんに繋がりましたね」
後で知ったことですが、当時の
妻は、体調を崩して、倒れる寸前
だったそうです。また、土下座を
した日、妻は息子と話し合ってい
たのでした。「お父さんは本気よ。
このままでいいの？」と必死に懇
願していたのです。

H氏はいかに自分が独りよがり
だったかと痛感しました。変わる
べきは息子ではなく、自分だつた
のです。四つの実践は、自分の頑
固さを溶かすものでした。

倫理の凄みを実感した氏は、胸
を張って倫理を勧められるように
なつたと言います。「絶対に大丈
夫」との言葉は、体験から紡ぎだ
した信念によるものだったのです。